

1. 構成材料

(1) フェノールフォーム断熱材

ネオマフォーム高密度 (40K) 品 : JIS A 9511 発泡プラスチック保温材

A 種フェノールフォーム保温板 1 種 2 号 F S / 認証番号 TC 03 08 243

(2) 表面塗材

アクリル系エマルジョン樹脂 (非ホルムアルデヒド系、規制物質対象外)

2. 基本物性

基本物性一覧

項目	単位	物性値	試験法・条件
密度	kg / m <sup>3</sup>	40	JIS A 9511
圧縮強さ	N / cm <sup>2</sup>	22	JIS A 9511
熱伝導率	W / (m・K)	0.020	JIS A 1412

上記数値はフェノールフォーム断熱材の物性を示したものです。

上表における物性値は、測定データの代表値です。

(熱伝導率は第三者機関での試験 (JIS A 1412 による) より求めた熱物性値)

発泡剤には、オゾン破壊係数がゼロで、地球温暖化係数も極めて小さい「炭化水素系ガス」を用いています。フロン類は一切使用していません。

ネオマフォームは、ホルムアルデヒド放散区分 = F S 等級に該当します。なお製品ラベルには、「A 種フェノールフォーム保温板 1 種 2 号 F S」の表示がされていますが、これは JIS で定める表示内容に基づいたものであり、種類とホルムアルデヒド放散による区分を示しています。また、ネオマフォーム DH の表面塗材はホルムアルデヒドの規制物質対象外です。

【取扱上の注意】

- ・ 常時高温 (100 以上) で使用した場合、熱伝導率等の物性の低下をきたします。
- ・ 保管には、直射日光に当たる場所、水分に接する場所は避けて下さい。
- ・ ネオマフォームの基材は、炎をあてると炭化する性質があります。輸送、保管、施工にあたっては、火気に十分ご注意ください。特に、ネオマフォームの切断等で生じた粉塵には火が移り易くなりますので、ご注意ください。(ネオマフォームの基材の酸素指数: 28 以上)
- ・ 切断時には粉塵が発生しますので、切断器具には粉塵吸引装置を設け、作業者は正規の作業服を着用の上、防塵マスク、防護眼鏡などの使用をお願いします。また、狭い場所で多量の切断作業を行う場合は、十分な外気の導入を行うと共に、粉塵量の管理を十分に行ってください。
- ・ 廃棄する際は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、許可を受けた産廃処理業者に処理委託して下さい。処理にあたり、ネオマフォームを圧縮・粉砕すると、内部の炭化水素ガスが放散されます。危険防止の為、閉空間での作業は避け、十分な通風を確保した上で火気に注意して行って下さい。
- ・ その他取扱注意事項については、ネオマフォーム DH のカタログをご覧ください。